

在宅勤務（リモートワーク）の増加により頻発するク
レームに迅速対応し、業務効率低下を**最小限に抑
えたい**

今までと違う業務形態になりシステムがひっ迫、効率的
に**的確な根本対策をしたい**

でも…何をどのように改善すればよいか、分からない

帯域がひっ迫しているのは分かったが、
リソースを占有しているサービスや
拠点/ユーザーが分からない



リソースひっ迫のボトルネックがどこ
か分からないので、**闇雲な機器
増設やアプリケーション移行**になり
がち…

拠点毎の状況を知りたいが、調査に
時間がかかる…



課題解決を支援します！

ネットワークを流れる通信から、サービ
ス・拠点・ユーザー別に占有帯域や通信
品質を見える化し、迅速かつ効果的な
緊急対策をサポートします。

拠点別 占有帯域



C拠点
B拠点
A拠点

帯域(リソース)
の占有率が
高いA拠点に
ビデオ通話を
控えるよう注意
喚起しよう！



情報システム部門

拠点別 通信品質 (通信エラー数など)



C拠点
B拠点
A拠点

今までと違うリモートワーク主体の業
務形態に変わり、システムの通信品質
にも変化が起きています。ボトルネック
を把握して**的確な根本対策**をサポート
します。

サービス別 通信品質 (通信エラー数など)



VDI
音声通話
ファイル共有

VDIサービス以外
は通信品質に問
題無く、帯域も余
裕がある。応答が
遅いボトルネックは
VDIサービスなの
でリソース増強し
よう！



情報システム部門

VDI : Virtual Desktop Infrastructure

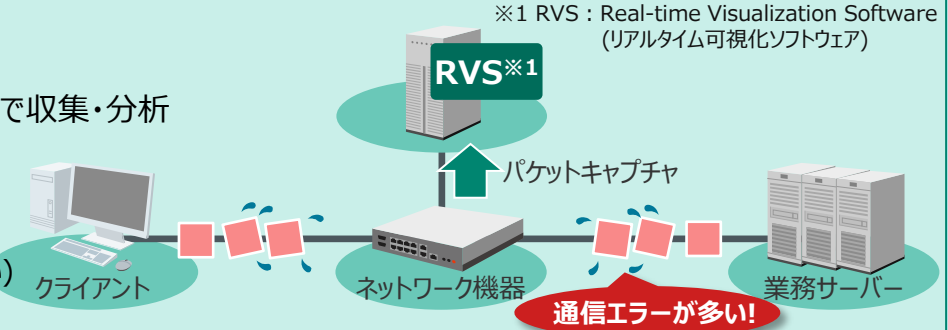
ソリューションの概要

●可視化の仕組み

RVSはシステムを流れるトラフィックを
IPアドレス/サブネット・ポート番号単位で収集・分析

➡ 拠点/ユーザー・サービス単位で

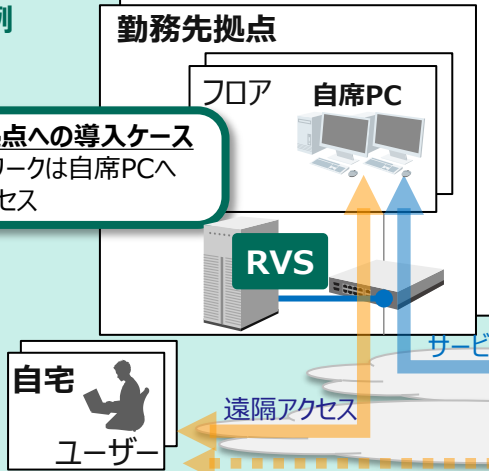
- 通信量 (回線のひっ迫具合)
 - 通信エラー数・応答時間※2
(ユーザー体感：つながりにくい・遅い)
- を可視化 ※2 次期エンハンス版にて対応



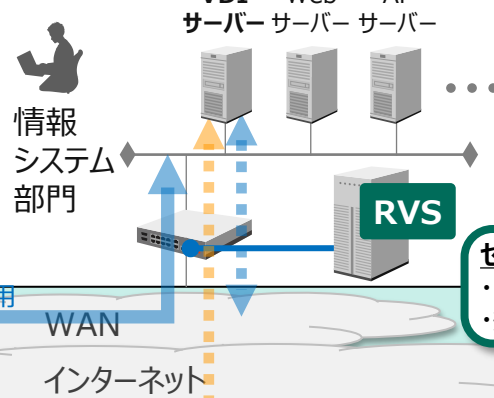
●導入例

勤務先拠点への導入ケース

- ・リモートワークは自席PCへ遠隔アクセス



センター

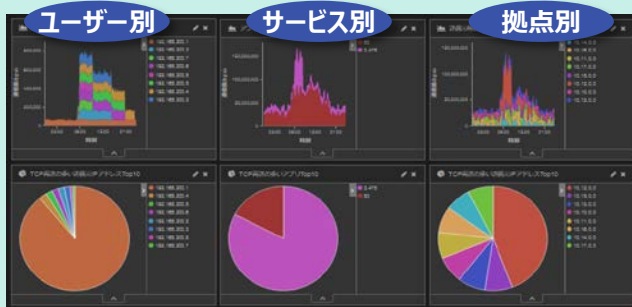


センターへの導入ケース

- ・リモートワークはVDIを利用
- ・拠点別に比較/監視したい

クラウドサービス

●可視化画面(イメージ)



遠隔アクセス

サービス利用

遠隔アクセス or サービス利用のどちらがボトルネックかも判別可

●導入支援

お客様のリモートワーク形態に合わせて最も効果的な導入形態をご提案します。

●カスタマイズ

お客様の運用形態に合わせて、グラフのフォーマット・凡例や配置を拠点別にカスタマイズします。

●外部システム連携

通信エラー・応答時間のしきい値超過時にSNMP-Trapやメールの発報が可能です。

●要因推定(オプション)

通信エラー増加時などに不調の根本要因(例：VDIサーバーへのトラフィック集中)を自動推定・通知しますので、迅速な復旧対処をサポートします。

●記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

●記載している仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。

●製品の色は印刷されたものですので、実際の製品の色調と異なる場合があります。

●本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

- 「システム稼働リスク可視化ソリューション」に関するホームページ
<http://www.hitachi.co.jp/rvs/smfvs/>
- インターネットでのお問い合わせ
<http://www.hitachi.co.jp/network/contact/>